

【2021年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
生理心理学		必修(心) 選択(社.精)	2	2.3	前期
担当教員	研究室	電子メールID		オフィスアワー	
柁木 隆寿	B306	t.masaki		木曜日 14:40~17:00	
授業の目的・概要	<p>〈目的〉 日常生活における様々な「心」に関する問題について、生理心理学の基礎的な知識を使用して説明することができる。私たちの「心」を生み出している脳や神経系の構造・機能について理解を深める。</p> <p>〈概要〉 本講義では、「心」と「身体」の関係について学んでいく。私たちが普段当たり前に行っている様々な行動、そして、当たり前のように感じている感情・情動が、どのような生理学的メカニズムによって生起しているのかを解説する。また、「睡眠」、「食欲」、「ストレス」といった日常生活、特に健康に深く関連するテーマについての心理・生理学的知識の習得を目指す。</p>				
学習上の助言	毎回講義に出席し、積極的な態度で受講することを望む。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	生理心理学―脳のはたらきから見た心の世界 / 著: 岡田隆 他 / サイエンス社 ピネル バイオサイコロジー 脳―心と行動の神経科学 / 著: John P. J. Pinel / 西村書店				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	心理機能と脳活動の関連性について理解し、説明することができる。			WP(5)	
②	生理心理学の観点から心身の健康について考察し、説明することができる。			WP(4)、(5)	
③	生理心理学の応用について考察し、発案することができる。			WP(5)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーションを行う。生理心理学とはどのような学問かを理解する。	講義	シラバス・配付資料を熟読し、本講義の概要をまとめる。	3.5	
2	生理心理学の歴史、神経系の構造について学ぶ。	講義	神経系の基本的な働きについて、配布資料をもとに整理する。各構造について図を作成する。	3.5	
3	神経細胞(ニューロン)の構造・機能について学ぶ。	講義		3.5	
4	感覚 1: 視覚、聴覚について学ぶ。	講義・演習	各感覚の構造・機能を配布資料をもとに整理し、専門用語を記憶する。	3.5	
5	感覚 2: 体性感覚、味覚、嗅覚、感覚の統合について学ぶ。	講義・演習		3.5	
6	睡眠・リズム 1: 脳波、睡眠段階について学ぶ。	講義	睡眠の基本的な性質を配布資料をもとに整理し、睡眠についての心理学的知見をまとめる。	3.5	
7	睡眠・リズム 2: サーカディアンリズム、生物時計について学ぶ。	講義		3.5	
8	ストレス・情動 1: 情動の種類、表情について学ぶ。	講義・演習	ストレス・情動に関係する脳部位を配布資料をもとに整理する。ストレスと健康の関係性についてまとめ、自分や周囲の人の生活環境をストレスの観点から考察する。	3.5	
9	ストレス・情動 2: ストレッサーの種類、ストレス反応について学ぶ。	講義		3.5	
10	ストレス・情動 3: HPA系、ストレスと発達について学ぶ。	講義		3.5	
11	欲求 1: 食行動、体重調節について学ぶ。	講義・演習	食行動に関係する身体・脳部位をまとめる。食行動に関する心理学的知見について、日常例を考えて整理する。	3.5	
12	欲求 2: 視床下部、内分泌系について学ぶ。	講義		3.5	
13	学習・記憶 1: 条件づけ、宣言的記憶、非宣言的記憶、健忘について学ぶ。	講義	学習・記憶に関係する脳部位を配布資料をもとに整理する。これまでの授業内容との関連性について整理する。	5	
14	学習・記憶 2: 海馬、シナプス可塑性について学ぶ。	講義		5	
15	生理心理学の応用について学び、授業全体を総括する。	講義	シラバス・配付資料を熟読し、本講義の概要をまとめる。	8	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計	
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他		
		70	0	0	0	30	100	
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60	
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	10	30	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10	
評価のポイント		評価の実施方法と注意点					フィードバックの方法	
評価方法	行動目標							
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。専門用語を正しく理解し、それを用いて日常例や各現象を説明できるようにしておく必要がある。脳部位の名称、機能を正しく暗記しておく必要もある。					学内掲示、オフィスアワー、そして、Microsoft Teams を利用して総評を行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	毎回の講義でリアクションペーパーの提出を求め、その内容を採点する。リアクションペーパーには講義中に出される課題への解答、および講義内容に対する理解、発見、疑問などのコメントを記述することになる。内容の妥当性、問題発見能力を評価する。					学内掲示、オフィスアワー、そして、Microsoft Teams を利用して個別にフィードバックを行う。
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>Microsoft Teams を用いて諸事の連絡を行うので確認を怠らないこと。</p> <p>また、全 15 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。</p> <p>なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p> <p>教員の実務経験： 無し</p> <p>実践的授業の内容： 各回において、生理心理学実験や調査を体験することがある。つまり、実際に生理指標や心理指標を測定し、分析する。その体験内容や、準備学習で調べてきた事項について簡単なディスカッションなどを行い、知識の定着を図る。</p>								